

麻疹（はしか）に関する YCDC 医師レポート

まとめ

- 1) 国内で麻疹が流行する可能性は低い状況です。
- 2) 日本でも海外でも、子どもの麻疹ワクチン定期接種率低下が問題となっています。
- 3) 子ども達の定期接種をしっかりと受けられるようにしましょう。
- 4) 心配な方は自分の母子手帳を確認し、接種記録／罹患記録があるか確認しましょう。
- 5) 高齢者は小さい頃に罹患し抗体がある可能性が高く、一般的にはワクチン接種は不要ですが、不安がある場合はかかりつけ医に相談しましょう。

■ 概要

麻疹（はしか）は、パラミクソウイルス科に属する麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症です。免疫を持っていない人にとっては、とても感染力が強く*1、重症化する危険があります。

*1) 基本再生産数 18 : 免疫を持っていない人たちには、1人から18人に感染させる力がある

■ 世界の状況

WHO によると、西太平洋地域では 2021 年（1080 例）、2022 年（1422 例）と比較して 2023 年（5044 例）と急激に増加したと報告されています。特にフィリピン、マレーシアで地域的流行が見られています。

<https://www.who.int/westernpacific/news/item/01-03-2024-western-pacific-countries-at-risk-of-measles-outbreaks-due-to-immunization-and-surveillance-gaps>

ヨーロッパでは毎年のように流行がありましたが、2020 年からはロックダウンや海外渡航制限の影響で流行が見られませんでした。2023 年に入ってからルーマニア、リヒテンシュタイン、オーストリアで比較的多くの患者が報告されていますが、例年に比べればまだ小規模です。2020 年以降麻疹ワクチンの接種率が低下していることが問題視されています。

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/measles-eu-threat-assessment-brief-february-2024.pdf>

アメリカでは 2023 年では 58 例、2024 年に入ってから 3 月 21 日までに 64 例の症例が報告されています。

<https://www.cdc.gov/measles/cases-outbreaks.html>

■ 日本の状況

日本では 2024 年に入ってから、3 月 24 日時点で 20 名の患者が報告されています。このうち少なくとも 13 名は中東から到着した飛行機に同乗していたか、その関連の感染者です。

■ 日本で麻疹はインフルエンザやコロナのように流行するのか

その可能性はほぼないと考えます。日本では麻疹ワクチンの定期接種が幅広く行われているからです。麻疹ワクチンは極めて効果的で、その予防効果は1回接種93%、2回接種で98%とされています。

日本では1978年(昭和53年)から1回の定期接種が始まり、1990年(平成2年)からは2回の定期接種が義務化されました。これにより日本での麻疹の大規模流行は非常に起きにくくなっています。1978年より以前に生まれた方も、麻疹にかかったことがある人が多く、同じくかかりにくい状態です。これは2021年の年代別麻疹抗体価を調べた報告から類推可能です。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2569-related-articles/related-articles-511/11513-511r03.html>

■ 現在の課題は何か？

① 麻疹ワクチンの定期接種率低下

一つ目は、COVID-19流行下を経て、子ども達の麻疹ワクチン接種率が低下していることが挙げられます。地域内流行を防ぐためには95%の人が免疫を持っていることが一つの目安と考えられています。西太平洋地域でも、ヨーロッパでも、アメリカでも、そして日本でも、ワクチン接種率が低下しています。このことから麻疹がある一定数流行する素地ができてしまっています。

② 海外移動の増加

二つ目は、COVID-19の流行中に抑えられていた、海外への移動が増加したことです。日本は2015年に麻疹が国内流行状態にない(排除状態)と認定されています。ですが日本人が多く移動する東南アジアは前述の通り麻疹の流行状態にあります。海外旅行あるいは赴任時に麻疹の抗体がない状態で移動し、罹患し、帰国したときに麻疹を持ち込まれてしまい、周りに感染させてしまう状態が見られます。

③ 麻疹ワクチンの流通

2024年1月に、麻疹ワクチンを製造している会社の一部で、麻疹ウイルスカ価が承認規格を下回るロットが見つかったため一部自主回収となりました。本来はある程度の流通が確保されているので問題なかったはずですが、麻疹が日本に入って流行するのではないかと、ワクチンを打ちたい!という希望者の増加により、麻疹ワクチン、麻疹・風疹混合ワクチンが足りなくなるおそれがあります。

④ だれが麻疹に罹患しやすく、問題となりうるか

一番問題となるのは、麻疹ワクチンを打つには年齢が足りない生後12ヶ月未満の乳児です。ある程度親からの抗体で守られるものの、免疫のない状態ですから麻疹にかかりやすく、かつ重症化しやすい状態です。なぜ1歳以降にワクチンを打ち始めるのかというと、その前に打っても子どもの免疫が十分発達していないため、ワクチンの効果が十分発揮できないためです。ですから、ワクチン定期接種の子ども世代を含め、大人も95%以上の麻疹抗体を持っていることが望まれるのです。また免疫が弱っている成人(抗がん剤を投与していたり、血液の病気にかかっていたりしている)では麻疹に罹患する可能性が上がります。つまりワクチンを打てない乳児や、免疫が落ちている人を守るためにみんながワクチンを打つ(集団免疫)、という感覚です。

■ 今できること

① 子ども達へのワクチン定期接種を確実にしましょう！

まずは子ども達のワクチン定期接種の機会を逃さないようにしましょう。

5歳以下の子どもは重症化リスクがあるため、まずこの世代にワクチンをしっかり打ってもらえるようにすることが必要です。

* 定期接種の対象年齢の方（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は積極的勧奨の対象です！

② 自分のワクチン接種歴を確認しましょう！

2回の接種歴か、麻しんにかかった記録がある場合、ワクチンのさらなる接種は不要です。

1回の接種歴がある場合も、93%程度の予防効果はありますから、慌てて2回目の接種をする必要はありません。

③ ワクチン未接種でもあわてず、不安があれば抗体価を確認しましょう！

ワクチンの接種記録や罹患記録がない場合でも、国内で大流行する可能性は極めて低いので、慌てる必要はありません。不安がある方や海外渡航の予定がある方は、医療機関で麻しんの抗体価（免疫力）を測定してもらおうと良いでしょう。ある一定の値があれば、過去にかかったか、ワクチンを打っている可能性が高いです。採血検査で1週間ほどあれば結果が出ます。ただし、医療保険は使用できず、自費診療になりますのでご注意ください。

以下の方はワクチン接種等の対応について、かかりつけの医師にご相談ください。

- 1 定期接種を受けられなかった小児
- 2 ワクチン接種歴が確認できない妊娠を希望する女性とそのパートナー
- 3 海外に渡航する予定がある方のうち、抗体価が低い方

【参考①】厚労省 HP 麻しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

【参考②】厚労省 HP 麻しん風しん予防接種の実施状況（都道府県別地図）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/dl/231106-01.pdf>

◆山梨県感染症ポータルサイトもご覧ください



やまなし感染症ポータルサイト

Yamanashi Center for Infectious Disease Control and Prevention

https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html